

JAMA・JAPIA

EDIFACT

EDIFACT仕様書 作成ガイドライン

V1.01
JAMAEIE070

2005年3月31日

JAMA

Japan Automobile Manufacturers Association, Inc.

(社)日本自動車工業会
電子情報委員会 EDI 部会

JAPIA

Japan Auto Parts Industries Association

(社)日本自動車部品工業会
電子情報化委員会 EDI 検討会

目次

1 . はじめに	2
2 . 各社仕様書に記述する項目	3
2.1 総括編	3
2.2 個別編	4
3 . 仕様書の記述の仕方	5
3.1 表紙	5
3.2 目次	7
3.3 はじめに	8
3.4 送信方式	9
3.5 国連バージョンからの変更点	10
3.6 メッセージ構造	11
3.7 メッセージ構造図	12
3.8 メッセージ情報	13
3.9 セグメント詳細	14
3.10 項目割付表	15
3.11 メッセージ例	17
3.12 特記事項	18
3.13 補足 . セグメント割付表	19
3.14 改訂履歴	20
4 . 本書の改訂履歴	21
＜添付ファイル＞ テンプレート	
01 表紙テンプレート「個別」.doc	
01 表紙テンプレート「総括」.doc	
05 変更点テンプレート.doc	
06 メッセージ構造テンプレート.xls	
10 項目割付表テンプレート.xls	
11 メッセージ例テンプレート.xls	
13 セグメント割付表テンプレート.xls	
14 改訂履歴テンプレート.xls	

1. はじめに

(社)日本自動車工業会(JAMA)と、(社)日本自動車部品工業会(JAPIA)は、日本における部品取引業務の EDI 標準化を目的に、UN/EDIFACT を基本とする JAMA・JAPIA EDIFACT 導入ガイドラインを制定した。

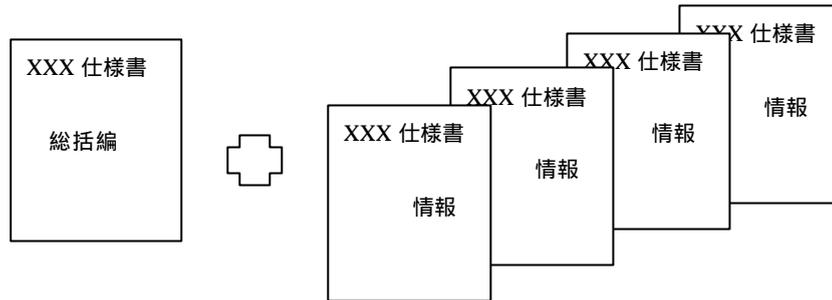
これにより、各社の EDIFACT 仕様は、JAMA・JAPIA EDIFACT 導入ガイドラインに準拠することとなったが、標準化の観点から、更に、EDIFACT 仕様書の記述方法についても統一化を図ることにした。

本書は、EDIFACT 仕様書を作成する際の記述方法(構成、書式等)について定めたもので、記述方法統一化により、仕様書参照者の便宜を図ると共に、広く標準化の普及に寄与することを目的としている。

EDIFACT 仕様書を作成する場合は、本書を遵守し、ここに示す規定に従って記述しなければならない。なお、作成にあたっては、本書に添付したテンプレートの利用を推奨する。また、第3章の各項目には、記述例を示したので、参考にされたい。

2. 各社仕様書に記述する項目

- ・記述項目の名称、および、順序は、ここに示す通りとする。
- ・仕様書の構成：各社での仕様書は、「総括編」(任意)と複数の「個別編」からなる。



2.1 総括編：任意

- ・情報種ごとの仕様書の全てにかかわる特記事項などを、総括的に記述する。
- ・この総括編の作成は、任意とする。

：必須 ：任意

	記述項目	必須	記述内容	テンプレート
1	表紙		会社名、発行日付、バージョン、責任部署を明記する。	サンプル 1枚
2	目次			-
3	はじめに		仕様書の見方 概要など仕様書全般に関する注釈を記述する。	-
4	送信方式		JAMA・JAPIA 取引情報標準書 (V1.05 以降) の 9.1 章に準じて送信方式を明記する。	-
5	国連バージョンからの変更点		国連バージョンとの違いを記述する。	全 メッセージ
6	UNB, UNZ 項目割付表		JAMA・JAPIA 取引情報標準書の 8.3 章に準じ、UNB、UNZ への設定項目を記述する。	UNB, UNZ
7	特記事項		仕様書を使用する上での、特記・注記などをまとめて記述する。	-
8	改訂履歴		今回までの全ての改訂内容を記述する。	基本表 1枚

テンプレート欄に記述のある項目は、テンプレートが電子ファイルとして存在する。

2.2 個別編：情報ごとに必須

：必須 ：任意

	記述項目	必須	記述内容	テンプレート
1	表紙		会社名、情報種、発行日付、バージョン、責任部署を明記する。	サンプル 1枚
2	目次		仕様書の目次を記述する。	-
3	はじめに		仕様書の見方、概要など該当仕様書に関する注釈を記述する。	-
4	送信方式		JAMA・JAPIA 取引情報標準書（V1.05以降）の9.1章に準じて送信方式を明記する。	-
5	国連バージョンからの変更点		国連バージョンとの違いを記述する。	全 メッセージ
6	メッセージ構造		自社で使用するメッセージ構造を記述する。	全 メッセージ
7	メッセージ構造図		メッセージ構造をツリー構造図により記述する	-
8	メッセージ情報		JAMA・JAPIA EDIFACT 導入ガイドラインの「メッセージ情報」に準じ、各セグメントへの入力情報を記述する。	-
9	セグメント詳細		JAMA・JAPIA EDIFACT 導入ガイドラインの「セグメント詳細記述」に準じ、使用する全セグメントの詳細情報を記述する。	-
10	項目割付表		<ul style="list-style-type: none"> ・国連で定義するセグメント表に、自社の項目をわりつける。 ・UNB-UNZ も作成する。ただし、複数メッセージを含む事ができる為、UNB-UNZ を総括編で記述してもよい。 	全 メッセージ
11	メッセージ例		EDIFACT 化された自社メッセージ例を、JAMA・JAPIA EDIFACT 導入ガイドラインの「記述例」に従って記述する。	基本表 1枚
12	特記事項		<ul style="list-style-type: none"> ・該当仕様書を使用する上での、特記・注記などをまとめて記述する。 ・セグメント個別の内容は項目割付表に記述する。 ・EDIFACT メッセージへの移行に際し、従来存在していた項目がなくなる場合は、その旨を明記することを必須とする。 	-
13	補足・セグメント割付表		EDIFACT メッセージへの移行に際し、従来存在していた項目が EDIFACT メッセージのどのエレメントに対応しているかを記述する。	基本表 1枚
14	改訂履歴		今回までの全ての改訂内容を記述する。	基本表 1枚

3 . 仕様書の記述の仕方

3.1 表紙：＜必須＞

- ・ テンプレートには、「総括編」用と「個別編」用がある。それぞれ、参考として記入してある場所に、下記に従って、各社の内容を記入する。
 - ・ 枠内 1 行目は、「JAMA・JAPIA 標準 EDIFACT メッセージ準拠」とする（固定）
 - ・ 枠内 2 行目「XXXXXXXX 仕様書」の XXXXXXXX には、会社名がわかる表記を行う。
また、「仕様書」とし、「ガイドライン」「ガイド」などの表現はやめる。
 - ・ 枠内 3 行目には、各社の情報名、システム名などを記述する。
ただし、総括編の表紙には、「総括編」と記入する。
 - ・ 個別編・枠内 4 行目には、EDIFACT メッセージ名を記入する。
 - ・ 個別編・枠内 5 行目には、準拠する JAMA・JAPIA EDIFACT 導入ガイドラインの JAMA 発行番号(JAMAEIExxx)を記入する。
 - ・ 枠の下段には、仕様書バージョン、作成（発行）日、会社名、担当部署名を入れる。
 - 仕様書バージョンは、各社の発行ルールに従った命名とする。（バージョン、リリース、版など）
 - 作成日の年号は、西暦とする。
 - 会社名、担当部署名は正式名称を使用する。
-

JAMA・JAPIA 標準 EDIFACT メッセージ準拠

会社名がわかる表記

XXXXXXXX 仕様書

自社情報名
システム名 など

内示確定情報

総括編の表紙
には、
「総括編」と
記入

EDIFACTメッセージ名

【DELFOR】

JAMAEIE031 準拠

準拠する
JAMA・JAPIA EDIFACT
導入ガイドライン名

バージョン、リリース
番号

V4.0 R01

発行日(西暦)

2004年 3月18日

XXXXXXXX 株式会社
部

正式な会社名
担当部署

3.2 目次：＜必須＞

- ・記述項目の名称、および、順序は、当ガイドラインの2章の通りとする。
- ・章番号の付け方は、JAMA・JAPIA EDIFACT 導入ガイドラインに従う。
- ・ページ番号を入れることを推奨する。ただし、特定できない場合は、省略も可能。

目 次

1 .	はじめに	1
2 .	送信方式	2
3 .	DELFOR メッセージ構造	3
4 .	項目割付表	4
5 .	メッセージ例	9
6 .	特記事項	11
補足 .	セグメント割付表	13

章番号の付け方は、
JAMA・JAPIA EDIFACT
導入ガイドラインに従う

1
1.1
1.1.1
(1)

3.3 はじめに：任意

- ・フォーマットは自由形式とする。
 - ・「はじめに」の中に記述する内容（参考）
 - 仕様書の見方
 - EDIFACT 化した情報一覧
 - 運用に関する事項
 - その他
-

はじめに

(1)この仕様書の見方

- ・この仕様書は、JAMA・JAPIA EDIFACT DELFOR 導入ガイドライン（JAMAEIE050）を基準としています。

・ - - - -

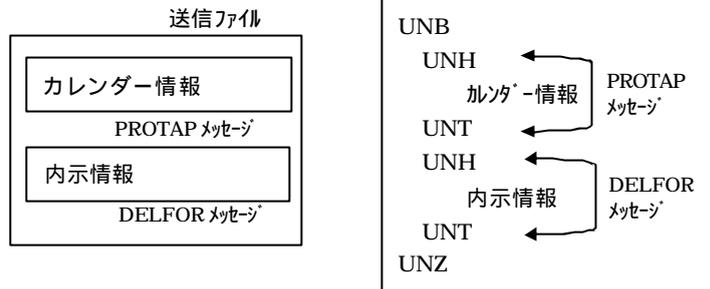
3.4 送信方式：＜必須＞

- ・メッセージ送信を行う場合の送信方式を以下から選び明記する。
送信方式の定義は、JAMA・JAPIA 取引情報標準書（V1.05以降）の9.1章を参照。
一括送信方式
個別送信方式 / 個別型
個別送信方式 / 送信ファイル単一型
個別送信方式 / 送信ファイル分割型
- ・方式の名称のほか、具体的にメッセージの構成、ファイルの構成も記述することを推奨する。

< 例 1 >

送信方式

- ・内示情報は**一括送信方式**です。
1つの送信ファイル内に、カレンダー情報（PROTAP）と内示情報（DELFOR）が、含まれています。



< 例 2 >

送信方式

- ・納入指示情報は、**個別送信方式 / 送信ファイル分割型**です。
- ・1つの送信ファイルで1000件分の明細を送信します。1000件を超える場合は、1000件ごとに送信ファイルを分割して送ります。
- ・最終のメッセージには、'EOF' が含まれます。



3.5 国連バージョンからの変更点：任意

- ・国連バージョンとの違いを記述する。
- ・テンプレートをそのまま使用し、さらに、自社独自で変更した点を追加する。
- ・表中の変更点のうち、自社に関する部分に を、左端列に記述する。
- ・コードの追加も載せる。

DELFOR D99A からの変更点

使用項目	Pos.	Seg	分類	内容
	0040	FTX	属性変更	c108.e4440 の属性 an..70 an..512
	0400	IMD	繰返数増加	10 99
	0501	SG13-1	SG 挿入	CTA-COM を持つ SG、繰返し 9
	0502	CTA	セグメント挿入	繰返し 1
	0503	COM	セグメント挿入	繰返し 9
	0504	SG13-2	SG 挿入	PRI-DTM を持つ SG、繰返し 9
	0505	PRI	セグメント挿入	繰返し 1
	0506	DTM	セグメント挿入	繰返し 9
	1040	U N T	桁数増加	e0074 桁数を増加 6 10

3.6 メッセージ構造：任意

- ・テンプレートを利用し、自社のメッセージ構造を記述する。
- ・自社で使用しないセグメントは削除する。
- ・左端には、自社での Usage を MROX 方式で記入する。ただし、テンプレートには、JAMA Usage が記載してあるので、変更する。
- ・「自社 Use」欄には、自社で使用する最大繰返し回数を記述する。

自社 Usage	Pos. ID	Seg ID	Name	自社 Use
M	0010	UNH	Message Header	1
M	0020	BGM	Beginning of Message	1
M	0030	DTM	Date/Time/Period	2
O				2
R				1
M	0060	REF	Reference	1
R	0080		Segment Group 2	3
M	0090	NAD	Name and Address	1
R	0190		Segment Group 6	レコード数分
M	0200	GIS	General Indicator	1
R	0210		Segment Group 7	1
M	0220	NAD	Name and Address	1
R	0370		Segment Group 12	1
M	0380	LIN	Line Item	1
R	0390	PIA	Additional Product ID	1
R	0400	IMD	Item Description	9
R	0501		Segment Group 13-1	3
M	0502	CTA	Contact Information	1
R	0610		Segment Group 17	2
M	0620	SCC	Scheduling Conditions	1
R	0630		Segment Group 18	6/31(*1)
M	0640	QTY	Quantity	1
R	0650	DTM	Date/Time/Period	1
R	0690		Segment Group 20	1
M	0700	PAC	Package	1
M	1040	UNT	Message Trailer	1

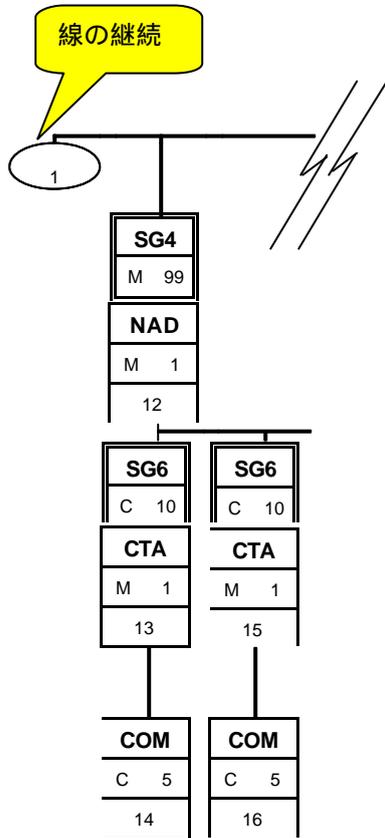
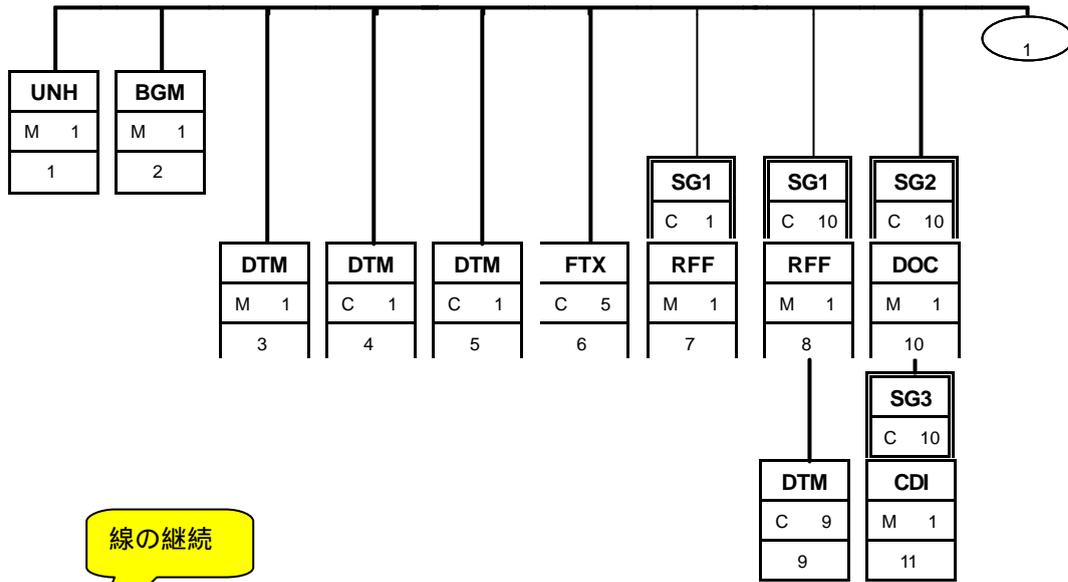
自社での最大繰返し回数

JAMA Usage から自社 Usage へ変更する

(*1)1 回目は 6、2 回目は月内日数

3.7 メッセージ構造図：任意

- ・フォーマットは ODETTE 方式を推奨する。(下記参照)(横書き)



< 凡例 >



3.8 メッセージ情報：任意

- ・フォーマットは JAMA・JAPIA EDIFACT 導入ガイドラインの「メッセージ情報」に準じる。
- ・下記例のように、自社項目の対比や説明を追加する。

10 UNH

0062：当メッセージを特定するメッセージ参照番号

AAA000001

S009：

0065：'DELFOR'

0052：'D'

0054：'99A'

0051：'UN'

0057：'JAMA01'

JAMA 仕様などの説明

自社の仕様や項目などの説明

20 BGM

C002 1001：定期/臨時の識別

Code of 1001	Code name	自社仕様
241	Delivery schedule	通常の場合
222	Spot order	臨時の場合

1000：'611000000' 情報区分コード

C 106 1004：'JAMAEIE031-XXX' + 詳細コード（ファイル XXX の場合）

OR 'JAMAEIE031-YYY' + 詳細コード（ファイル YYY の場合）

1225：'5'（常に 5 を使用）

30 DTM このメッセージの発行日と対象月

C507：

Code of 2005	Code name	自社項目
137	Document/message date/time	ファイル日付け
157	Validity start date	対象年月

2380：ファイル日付け、対象年月

Code of 2379	Code name	自社仕様
102	CCYYMMDD	年月日
610	CCYYMM	年月

西暦年上 2 桁は '20' が入る

50 SG1：

60 R F F 処理番号

C506 1153：'AGK'（Application reference number）処理番号

1154：処理番号

80 SG2

90 NAD 発注者、受注者、仕入先、出荷元、親発注者を定義

3035:

Code of 3035	Code name	C082 3039 自社項目	C082 3055	C058 3124 自社項目
BY	発注者	発信元コード（T1000）	92	発信元サブアドレス
SE	受注者	宛先取引先コード	92	宛先サブアドレス
SF	出荷元	仕入先コード	92	-

3.9 セグメント詳細：任意

- ・フォーマットは JAMA・JAPIA EDIFACT 導入ガイドラインの「セグメント詳細記述」に準じる。
- ・自社で使用しているセグメント・グループ、セグメントのみ記述する。
- ・左列 Usage と右上 Usage は、自社 Usage とする。形式は、JAMA・JAPIA EDIFACT 導入ガイドラインと同じ MROX 式。
- ・エレメントは全て表示する。(エレメントの省略記述をしてはならない)
- ・必要に応じて、自社項目の説明や、対応の記述を入れる。
- ・繰返し使用するセグメントについては、その全てを出力順に記述することを推奨する。ただし、繰返し数が不定の場合や、同類データの繰返しについては、1 回の記述でよい。
- ・右上 (n/m) の記述方法：
 - m：自社で使用する最大回数。
 - 不特定の場合は JAMA・JAPIA EDIFACT 導入ガイドラインでの定義数とする。
 - n：1 から m まで、順次出現する。不特定の場合は、n とする。

Segment: **RFF** Reference M (2/3)

Position: 0060

Group: Segment Group 1

Level: 2

Usage: Mandatory

Purpose: To specify a reference.

Comments: 処理番号を定義する。

Examples: RFF+AGK: 01'

自社 Usage

出力例

3回使用する内の2回目

Data Elements

Usage	D-Elm	C-Elm	Name	Attributes
M	C506		REFERENCE	M
M		1153	Reference qualifier AGK Application reference number 処理番号	M an..3
R		1154	Reference number 処理番号	C an..35
X		1156	Line number	C an..6
X		4000	Reference version number	C an..35
X		1060	Revision number	C an..6

自社 Usage

自社項目名称

3.10 項目割付表：＜必須＞

1. フォーマットはテンプレートに従う。自社項目をセグメント表に割り付ける。
2. A 4用紙横 1 列に印刷可能にすること。その中で、各列の幅の変更は可能。
3. 列 A から列 G までは、セグメント階層構造を記述する。(最大 7 階層まで表現可能)
エクセルシートの罫線を使用し、太線を使って線引きを行う。
4. 列 H から列 Q までは、国連および JAMA での設定を示す。
5. 列 R から列 W までに自社項目の対応を記述する。
6. 列 R から列 W の表題部分に、自社の情報名称を記述する。
7. 「繰返し」の列 R には、実際に使用するセグメント・グループやセグメントの数を
n / m の形で記述し、1 / m から m / m まで全てのデータを記述する。
ただし、不定数の繰返しは、n / 列 K に示す数 とする。
また、有限数の同種データの繰返しは、n / 自社での最大数 とする。
8. 「自社 Usage」の列 S には、すべての項目に対して、自社での使用・未使用を MROX 形式で記入する。
M : JAMA-Usage が M で、自社でも使用している項目。
R : JAMA-Usage が R , O , X で、自社では必ず使用する項目。
O : JAMA-Usage が O , X で、自社では、場合によって使用する項目。
X : JAMA-Usage にかかわらず、自社では使用しない項目。
9. 「項目名称」の列 T には、自社項目名称を記述する。
10. 「設定値」の列 U には、実際の設定データを記述する。ただし、データが不定の場合は、左矢印 ()
にて項目名称を指し示す。
11. 「属性 (桁数)」の列 V には、自社のデータの桁数を記述する。
X(n) : 最大 n 文字の英数字タイプ
9(n) : 最大 n 文字の数字タイプ
C(n) : 最大 n 文字の 2 バイト文字 (漢字、カナ)
9(n)V9(m) : 整数部最大 n 文字、小数部最大 m 文字の仮想小数点数字タイプ
S9(n) : 最大 n 文字の符号付の数字タイプ
S9(n)V9(m) : 整数部最大 n 文字、小数部最大 m 文字の符号付の仮想小数点数字タイプ
9(n).9(m) : 整数部最大 n 文字、小数部最大 m 文字の固定小数点タイプ
S9(n).9(m) : 整数部最大 n 文字、小数部最大 m 文字の符号付の固定小数点タイプ
12. 「補足説明」の列 W には、自社コードの説明など、補足説明を記述する。セグメント内でセットする
情報内容が変わり得る場合があれば、設定情報の内容・情報設定条件などをここに記述する。
13. テンプレートは、JAMA・JAPIA 標準として定めたセグメントの基本構成が用意されている。
- セグメント・グループおよびセグメントの繰返し使用の場合は、必要数 (n 個) だけ該当部分を
コピー・ペーストして使う。
- 使用していないセグメント・グループやセグメントは、その全体を削除する。
- テンプレートにないセグメント・グループやセグメントを使用する場合 (標準範囲外) は、
テンプレートにならって作成・挿入するとともに、その旨を補足説明欄に明記する。
14. エレメントの省略について
- セグメント内、および、Cxxx 内において、
使用しているエレメントが下にある場合、上位のエレメントは、省略してはいけない。
- 使用しない Cxxx は、Cxxx のみをのこす。
- Cxxx 内のエレメントは、最後の使用するエレメントの直後から最後まで省略できる。
- セグメント内の最後の使用するエレメントの直後から最後まで省略できる。

項目割付表

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W
	Pos.	Seg.	Req.	Use	DATA	Comp.	m/c	Att	JAMA	JAMA	自社情報名称											
	No.	ID	Des.	max	Elm.	Elm.			Usage	Elements	繰返	自社 Usage	項目名称	設定値	属性(桁数)	補足説明						
	10	UNH	M	1					M	ヘッダー	1											
					0062		m	an..14	M	メッセージ 参												
					S009		m		M	メッセージ D												
						0065	m	an..6	M	DELFOR											DELFOR	
						0052	m	an..3	M	D											D	

	80	SG2	C	99					R		1/3											
	90	NAD	M	1					M	発注者	1	M										
					3035		m	an..3	M	BY		M									BY	
					C082		c		R			R										
						3039	m	an..35	M	企業コード		M	発信元コード								X(5)	
						1131	c	an..3	X			X										
						3055	c	an..3	R	92 / 289		R									92	
					C058		c		O			X										
						3124	m	an..35	X	企業名		X										

階層構造を示す線

下の 3055 が R のため、このエレメント行を削除してはならない

これ以降すべて X ならそれらの行を削除してもよい

3.11 メッセージ例：任意

- ・フォーマットは、JAMA・JAPIA EDIFACT 導入ガイドラインの「記述例」に準じる。
- ・自社データが生成される順に記述する。
- ・解説には、説明が必要と思われる項目について、その説明を記述する。

セグメント	解説
UNB+UNOX:3+T1000:92+2000:92+030426:0530'	UNOX:漢字を許す設定を示す T1000: 発信者コード 2000: 受信者コード 030426: 発信日 0530: 発信時刻
UNH+001001+DELFOR:D:99A:UN:JAMA01'	001001: ユニークな記号
BGM+241:::6110000000+JAMAEIE031-F1+5'	
DTM+137:20030426:102'	発信日
DTM+157:200305:610'	注文対象月
RFF+AGK:01'	
NAD+BY+T1000:::92+000'	発注者
(ここからレコード分繰り返し)	
GIS+37'	
NAD+ST+1000V:::92'	納入先
LIN+++1234567890:IN'	部品番号
IMD+S+E04:::290+sno:::92'	背番号
IMD+S+E02:::290+k:::92'	重点管理部品コード
LOC+11+u1:::92'	納入場所
SCC+4++Y'	4: 内示を示す
QTY+113:nnnnnnnn'	1 日目の納入数量
DTM+2:20030501:102'	5 月 1 日
(2 日 ~ 30 日分繰り返し)	
QTY+113:nnnnnnnn'	
DTM+2:20030531:102'	
PAC++3:35++F:nnnnn'	
(ここまでレコード数分繰り返し)	
UNT+mm+ 001001'	mm: セグメント数合計
UNZ+1+001'	1: メッセージ数合計

3.12 特記事項：任意 ただし、EDIFACT メッセージへの移行による項目廃止時は必須。

- ・フォーマットは、自由形式とする。(下記参照)
- ・EDIFACT メッセージへの移行に際し、従来存在していた項目がなくなる場合は、その旨を明記する。この場合、特記事項は必須とする。

特記事項

- (1) 生成されるメッセージの日付項目は西暦年 4 桁で設定します。業務データで西暦年上 2 桁が無いものについては、下 2 桁の値が「50」以上ならば「19」、それ以外ならば「20」を設定します。
- (2) 数量、個数、金額などの数値項目は、先頭ゼロを省略します。
- (3) 数値項目の小数点は、仮想小数点方式のため、ついておりません。
小数点の位置は、項目割付表の該当項目の「自社項目」欄に記述します。
- (4) 従来存在していた項目「納期区分」は、削除しました。

3.13 補足・セグメント割付表：任意 ただし、EDIFACT メッセージへの移行時は必須

- ・従来の伝送情報の EDIFACT メッセージへの移行措置として、従来存在していた自社の各項目が EDIFACT メッセージのどのエレメントに対応しているかを記述する。
- ・A4用紙横書きとする。(各列幅は、適宜変更する)
- ・設定エレメントの記述方法

0030DTM(1) - C507 - 2380
 SG2(1) - NAD - C082 - 3039
 SG6(*) - SG12(1) - IMD(5) - C273 - 7009
 SG6(*) - SG12(1) - IMD(5) - C273 - 7008(1)
 SG6(*) - SG12(1) - PIA(2) - C212(2) - 7143
 SG6(*) - SG12(1) - SG17(1) - SG18(5) - QTY - C186 - 6060

SG に属さないセグメントは、
 ポジション番号を冠する。

繰返しの何番目かを記述。不特定の場合は*とする。

内示情報 セグメント割付表

コードの説明
 など

EDIFACT 上での
 補足説明など

<ヘッダー部>

No.	項目名称	開始桁	桁数	EDIFACT 設定項目	内容説明	EDIFACT 設定エレメント	備考
1	レコード区分	1	1	x	ヘッダー部を示す	-	
2	発信者コード	2	5			SG2(1) - NAD - C082 - 3039	
3							

自社のレコード構成に
 従い、区別する。

<データ部>

No.	項目名称	開始桁	桁数	EDIFACT 設定項目	内容説明	EDIFACT 設定エレメント	備考
1	レコード区分	1	1	x	データ部を示す	-	
n1	国内輸出区分	18	1		0：国内用 1：輸出用	SG6(*) - SG12(1) - IMD(5) - C203 - 7009	
n2	N月5日数量	70	8			SG6(*) - SG12(1) - SG17(1) - SG18(5) - QTY - C186 - 6060	
n3	N月31日数量	272	8			SG6(*) - SG12(1) - SG17(1) - SG18(31) - QTY - C186 - 6060	31日がない月は設定しない

3.14 改訂履歴：<必須>

- ・今回までの全ての改訂内容を記述する。
- ・最初に、初版発行日付を記述する。
- ・改訂ごとに、下記の表を作成する。
- ・「適用開始日」はオプションとし、そのバージョンが適用される(された)日を記述する。

改訂履歴

< 2003年1月1日 V1 発行 >

< オプション >

< 2003年5月31日発行 V2 改訂内容 >

適用開始日：2003年7月1日

No.	改訂箇所	改訂内容	備考
1	5. 特記事項	・日付けの記述方法についての項目を、(10)に追加しました。	
2	6. 項目割付表	・自工会仕様書作成ガイドラインに従い、項目割付表を追加しました。	
3			
4			

< 2003年10月31日発行 V3 改訂内容 >

適用開始日：2003年11月1日

No.	改訂箇所	改訂内容	備考
1			
2		・	
3			
4			

4 . 本書の改訂履歴

< 2004年12月24日 V1.00 JAMAEIE061 発行 >

< 2005年3月31日発行 V1.01 JAMAEIE070 改訂内容 >

No.	改訂箇所	改訂内容	備考
1	3.4 送信方式	・送信方式の記述を変更しました。	取引情報標準書 V1.05 9.1 章に定義を記述

EDIFACT 仕様書作成ガイドライン 検討委員

社団法人 日本自動車工業会

塩澤	敬和	EDI 部会	部会長	(トヨタ自動車)
山川	孝憲	メッセージWG	委員	(いすゞ自動車)
雨宮	敏幸	メッセージWG	委員	(川崎重工業)
土屋	雅美	メッセージWG	委員	(スズキ)
上岡	秀行	メッセージWG	委員	(ダイハツ工業)
藤原	春雄	メッセージWG	委員	(日産自動車)
蓮沼	貞子	メッセージWG	委員	(日産ディーゼル工業)
外田	英二	メッセージWG	委員	(日野自動車)
大沢	理之	メッセージWG	委員	(富士重工業)
今田	毅	メッセージWG	委員	(本田技研工業)
洪水	宏明	メッセージWG	委員	(マツダ)
藤本	正和	メッセージWG	委員	(三菱自動車工業)
須藤	卓司	メッセージWG	委員	(ヤマハ発動機)

社団法人 日本自動車部品工業会

永井	健一郎	EDI 検討会	委員	(デンソー)
植田	浩	EDI 検討会	委員	(豊田合成)
山本	浩一	EDI 検討会	委員	(日本ケーブル・システム)

連絡先：(社)日本自動車工業会 交通統括部電子情報グループ

〒105-0012 東京都港区芝大門1の1の30 日本自動車会館
TEL：03-5405-6123 FAX：03-5405-6136

Copyright：(社)日本自動車工業会